

熊大通信

vol. 84
2022 Spring

巻頭特集

学長に聞く！熊本大学の今と、これから

特集Ⅰ

健やかな命を「つなぐ」 健康長寿への一歩

特集Ⅱ

ようこそ！熊本大学へ！ 学びのための基礎用語集2022



重要文化財の図面

「旧第五高等中学校本館」を始めとする五高関連の重要文化財には、建設に際して作成された40枚の図面が附指定されている。内訳は、本館に関する図面24枚、化学実験場が10枚、表門が6枚である。

100分の1の縮尺で立面図や平面図が6面、その他は20分の1、10分の1の部分的な立面図、断面図、詳細図が26面、2分の1縮尺の詳細図5面、原寸の詳細図が5面という構成である。

この内、2分の1で作成されたものが総て階段の親柱や手摺りなどであることと、原寸で作成されたものが総て鑄鉄製の金具類である点が特徴的だ。現場で製作することが難しい金具類や細かい作業を要する階段の木製部分などは、一目見て大きさや形が解るよう配慮したと思われる。

和紙を貼り合わせて大きな用紙とし、煉瓦や石、木部の色をきちんと塗り分け、仕上がりのイメージが伝わりやすいよう色彩的にも配慮しているため絵画作品のように美しい。

図に附された小さな書き込みや上から紙を貼って修正した部分があることから実際に使用されたものであることが解るが、熊本で初めての煉瓦造建築を見事に作り上げたいという設計者の気概もうかがえる図面である。

文 藤本秀子（五高記念館）



(上から)いずれも第五高等中学校図面
「門鑄鉄原寸」、「梯子段親柱及手摺之図」、
中央階段親柱



※復旧工事の際に発見された明治期の黒板。黒板に書かれた文字も残っていました。

未来へつなぐ。
— 熊本大学とSDGs —



重要文化財である五高記念館は、2016年の地震で煙突の倒壊や屋根の破損などの被害が発生したため、復旧工事を行っています。竣工当時の姿を残しつつ、今後発生するかもしれない自然災害への耐久性を高める工事が、2021年12月に完了。今後は、大学内の文化財を有機的に結びつつ、学内での連携を図りながら、段階的な一般公開を予定しており、建築と学びの歴史を次世代につないでいこうとしています。

五高記念館長
伊東 龍一 教授
(大学院先端科学研究部)



※五高記念館については、ウェブマガジン「熊大なう。」でも紹介しています。

CONTENTS

- 03 巻頭特集 学長に聞く！ 熊本大学の今と、これから
- 05 特集Ⅰ 健やかな命を「つなぐ」健康長寿への一歩
- 13 研究室探訪 マンガを切り口に現代の社会や文化を見つめる
文学部 コミュニケーション情報学科 現代文化資源学コース
日高 利泰 准教授
- 15 特集Ⅱ ようこそ！熊本大学へ！
学びのための基礎用語集 2022
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 学生広報スタッフの活動報告
- 20 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙 / 【原画】大学院教育学研究科 松永 拓己 教授
震災から復旧した五高記念館

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.84

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110
(総務部総務課広報戦略室)
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会
茂木 俊伸 / 委員長 大学院人文社会科学部 (文学系)
安高 啓明 / 大学院人文社会科学部 (文学系)
松永 拓己 / 大学院教育学研究科
松永詩乃美 / 大学院人文社会科学部 (法学系)
原岡 喜重 / 大学院先端科学研究部 (理学系)
黒田 雅利 / 大学院先端科学研究部 (工学系)
坂梨 京子 / 大学院生命科学研究部 (保健学系)
首藤 剛 / 大学院生命科学研究部 (薬学系)
内山 佳世 / 総務部総務課広報戦略室

【制作】 株式会社 談

※取材にあたっては、基本的な感染防止対策をとった上で実施し、撮影時のみマスクを外しております。
※記載の職名、学年等は取材時のものです。

Kumamoto University
President Interview

長き伝統と、
卓越した数々の研究・教育。
最先端を行く熊本大学で
学ぶ誇りを。



学長
小川 久雄
OGAWA Hisao



浦島郁夫熊本県知事と五高記念館内の明治期の黒板の前で

2021年4月の学長就任以来、全学部への訪問や報道機関への積極的な情報発信など、精力的に動いている小川久雄学長。1年を経て感じる熊本大学の姿と、これから目指す姿について伺いました。

目指すのは国立大学トップ10

私が学長に就任して1年が経ちました。前職である国立循環器病研究センター理事長のころからのモットーは「**Face to Face**」。学長に就任後もそれは変わらず、1年をかけて全学部を訪ね、**顔が見える関係**を築いてきました。

その中で感じたのは、熊本大学には長く素晴らしい伝統があるだけではなく、非常に優秀な人材がたくさん在籍していること。そこで思いを強くしたのが、**国立大学の中でトップ10に入る**という目標の達成です。非常に難しいことですが、到達できそうな目標を掲げることに意味はなく、困難なことこそ挑戦する価値があると考えています。

全国有数の
研究実績をもつ大学

熊本大学には、**先端的な研究を行っている研究者が多数在籍しており**、その成果を世界に発信しています。まず理系では、文部科学省が日本の学術研究発展のために採択・認定する**共同利用・共同研究拠点**として、熊

課題解決につながる社会実装が不可欠です。研究をスタートアップ企業設立や既存産業の振興につなげるために、地域の企業や産業をよく知る金融機関と大学の連携は必須だと考えます。

また、**昨年4月に大学院先端科学研究部附属生物環境農学国際研究センターが発足**しました。世界中の農業に被害を与えている植物感染性線虫の研究をはじめとした基礎研究をベースに、農水産業の課題解決につながる応用研究の社会実装を目指しています。農業振興に関しては、農学部を持つ東海大学と包括的連携協定を結び、地域農業へのさらなる貢献も見据えています。

昨年には、世界最大手の半導体メーカーである台湾のTSMCが、ソニーグループと共同で熊本に新しい工場を建設することが発表されました。熊本大学は以前から半導体研究に力を入れており、優秀な研究者が複数在籍しているとともに、地域内に多数の人材を輩出しています。半導体分野における優秀な人材をさらに育成するため、**4月に大学院先端科学研究部附属半導体研究教育センターを設立**しました。TSMC進出で大きく変わる熊本の産業に貢献することが狙いです。

学ぶ環境も充実、自ら
積極的に動いて力を付けよう

このように、卓越した研究と教育、そして社会貢献に挑む場として、トピック

本大学の研究施設が選ばれています。一つは、発生医学研究所、もう一つが、先進軽金属材料国際研究機構です。昨年、同機構は、本学の先進マグネシウム国際研究センターと富山大学の先進アルミニウム国際研究センターとの連携で設立されました。**以上の2施設が採択されたこと**で、**採択拠点数では全国の大学でトップ10に入ることができました**。さらに、

JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）が行っている、**創発的研究支援事業**においては、採択された本学の研究者の数は2020年度が7名、2021年度が5名で、**全国の大学でトップ10**に入っています。

文系においては、永青文庫研究センターは日本を代表する古文書資料研究施設ですし、マンガやアニメを文化・学問として研究する文学部の現代文化資源学コースも、非常にユニークです。児童や生徒の情報活用能力を高めるため、熊本県内の学校教員を対象に研修を行っている教職大学院の情報教育研修会は2021年、デジタル庁の「デジタル社会推進賞」銀賞を受賞しています。

熊本県の産業に
寄与する研究や取組も

地域においても様々な役割を担い、連携を推進しています。現在進めているのが、地元の金融機関との連携協定の締結。**研究はラボ内で完結するものではなく**

ラスの大学にも引けを取らないのが熊本大学です。新入生の皆さんも含め全学生に意識してもらいたいのは、皆さんが知っている以上に、熊本大学は素晴らしい学問の場だということです。

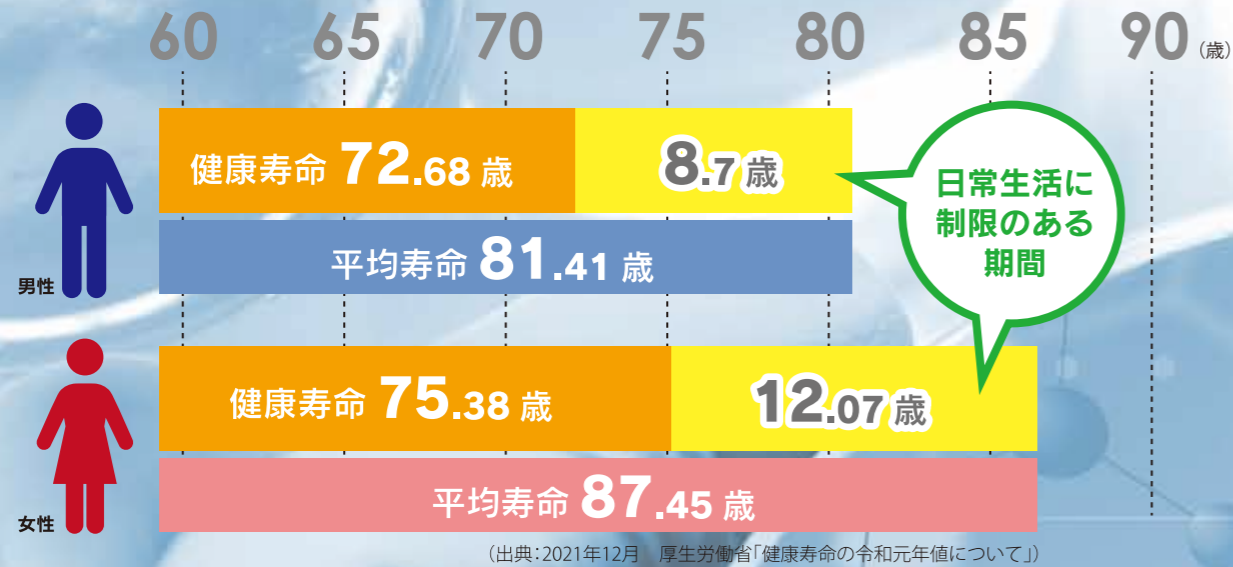
教育の面で力を入れていく取組の一つに、**文系理系を問わず、データサイエンスとグローバルなリテラシーを身につける教育の推進**があります。データサイエンスとグローバル社会への対応能力は今後、どのような職業に就くとしても必須のスキル。熊本大学には数理科学総合教育センターと多言語文化総合教育センターがあり、これらのスキルを修得できる環境を整えています。学生の皆さんは自ら積極的に、力を身につける機会を活かしてください。

熊本大学が先端を行く研究・教育の場であることをどんどん発信していきたいと考え、**常に情報を発信し続ける大学**、**常に外から見える大学**、**常に外からの声に耳を傾け、発展し続ける大学**、という3つの目標も掲げています。大学全体のレベルをもっと上げ発展させるために、私は率先して動くつもりです。学生の皆さんは、熊本大学で学んでいることに誇りを持ち、できる限りやりたいことに取り組み、学生生活を充実させてほしいと思います。

小川学長による
大学説明動画も
ご覧ください



センターの目的は「日常生活に制限のある期間」を短くすること

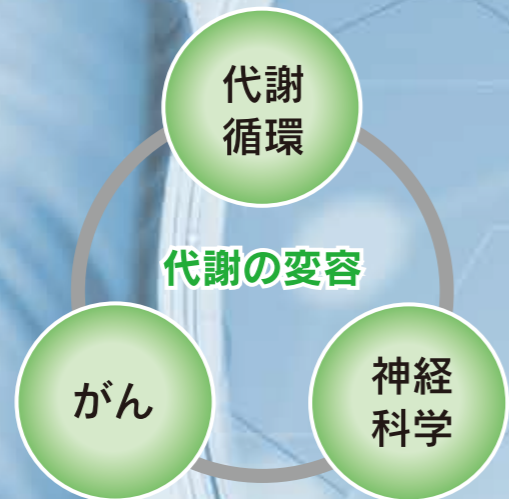


健やかな命をつなぐ

健康長寿への一歩

特集 1

老化の基本的特徴の1つ「代謝の変容」に着目した研究を展開



大学院生命科学研究部附属
健康長寿代謝制御
研究センター
公式ウェブサイト



代謝研究が盛んな熊本大学の特徴を活かして3つの重点領域を研究

センターの組織

代謝・循環研究部門 老化による代謝の変容について明らかにする 尾池 雄一 教授 (→p.7)	がん・幹細胞研究部門 がんなど老化に関連する疾患と幹細胞疲弊の分子構造を解明する 諸石 寿朗 教授 (→p.9)	神経・感覚・運動器研究部門 認知症のほか、目や関節などの神経・感覚・運動器疾患を研究する 三浦 恭子 准教授 (→p.11)	老化モデル研究部門 老化・がん耐性をもつモデル動物を用い、老化耐性の分子基盤を解明する 三浦 恭子 准教授 (→p.11)	疫学研究部門 老化関連疾患の発症要因の解明や新たな予防・治療法の開発に取り組む 三浦 恭子 准教授 (→p.11)
---	---	---	--	--

医療の発展等で日本人の寿命が延びてきていますが、健康なまま寿命を全うできる方はそれほど多くありません。熊本大学では「健康長寿」をテーマに研究する大学院生命科学研究部附属健康長寿代謝制御研究センターを2018年に創設しました。

老化や健康を脅かす要因やメカニズムに3領域・5部門からアプローチすると共に、最新の知見を集めて解明し、健康長寿の秘訣を探るユニークな研究拠点についてご紹介します。



大学院生命科学研究部附属
健康長寿代謝制御研究センター長
大学院生命科学研究部
代謝・循環医学分野代謝内科学講座

荒木 栄一 教授
ARAKI Eiichi

基礎研究を行う先生と臨床研究を行う先生をつなぎ、部門を超えた共同研究が盛んに行われていることは、本センターの強みです。例えば、私の専門は代謝内科学ですが、分子生物学の基礎研究で糖尿病患者には酵素の活性を低下させる遺伝子多型があることが分かっていたので、糖尿病患者に酵素の活性を良くする薬剤を投与することで血糖値管理ができないうか、という共同研究を行っています。異なる部門同士が連携することで、新しい治療法、予防法が生まれる可能性が高まります。

急速な少子高齢化が進む日本において、健康長寿は重要な研究テーマです。熊本から率先して取り組むことで、社会貢献していきたいと考えています。

日本人は平均寿命が長く、長寿だと言われていますが、自立した生活が送れる健康寿命との間には10年前後の差があります。健康寿命を延ばし、平均寿命との差を短くすることを目的に本センターが設立されました。

熊本大学では昔から代謝研究が盛んで、現在も重点領域の一つです。この成果を活かすことで、老化の基本的特徴である「代謝の変容」に着目した老化研究を展開しています。さらに健康長寿を妨げる病気がなぜ起きるのかを基礎研究で探り、前臨床研究・臨床研究を通して治療法や予防法の有効性を確かめ、多くの方に普及していく。本センターの目的は、この一連の活動をサポートすることです。

歴史的に盛んだった代謝研究
特徴的な健康長寿研究の拠点



Carenを投与した老化マウスの動きを見る尾池教授（左）

代謝・循環

研究部門

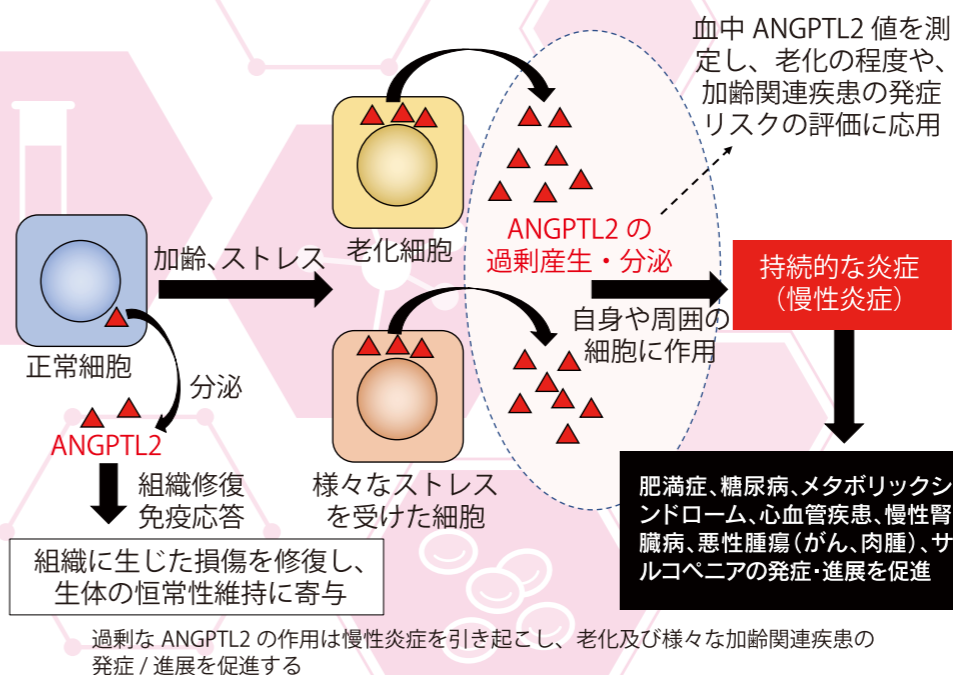
WHOの疾患分類に「老化関連」が追加！
幸せな人生を過ごすために
老化と加齢関連疾患のメカニズム解明に挑む

老化及び健康寿命の鍵となる加齢関連疾患。そのメカニズムを追究・解明し、新しい診断・予防・治療法の確立を目指し研究を続けているのが尾池雄一教授です。

老化を進め
健康長寿を阻害する
疾患を引き起こす
慢性炎症
その鍵タンパク質
「ANGPTL2」

炎症は、ウイルス感染や外傷時などに体を防御するために重要な役目を担っています。「近年、炎症が体内で持続する慢性炎症状態が、老化の程度や動脈硬化、がんなどの加齢関連疾患の発症を加速させる原因であること、これは感染や外傷とは関係なく、体内で老化した細胞や死んだ細胞が増えたことが原因であることが分かってきました」と尾池教授。慢性炎症は、高齢者だけでなく、運動不足や肥満の方でも起こり、肉体が実年齢を超えて老化が進み健康長寿を阻害する疾患を発

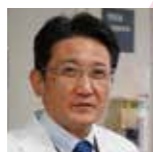
症しやすくなります。この慢性炎症に大きく関わるのが、尾池教授が見つけ研究を続けている「アンジオポエチン様因子2（ANGPTL2）」というタンパク質。「ANGPTL2は本来、組織修復や免疫応答など生体の恒常性に重要な役割を担います。しかし老化した細胞や肥満者の脂肪細胞や血球細胞から多量に分泌されたANGPTL2が慢性炎症の原因となり、動脈硬化、糖尿病、がん、サルコペニア（筋量減少や筋力低下）などを誘発することが分かりました」。ANGPTL2は血液中に存在するタンパク質で、これまでの複数の疫学研究により、その血中濃度が老化の程度や健康長寿を阻害する疾患の発症予測に有用であることが示され、2017年より熊本大病院検査力フェで測定可能です。この測定を一般化するためには大量の検体でも短時間で対応できることが必須のため、産学共



同研究で自動測定システムの開発も進めています。
心不全の予防・治療の
鍵となる
ミトコンドリアの
機能維持

尾池教授は、高齢者の増加に伴い心不全患者数が増えており、健康寿命阻害の一因となっていることに着目。心臓が健全に動き続けるために必要なエネルギーを十分に供給するためには、ミトコンドリアの機能が健全に維持されることが重要として、そのメカニズム解明も研究。治療標的となるタンパク質（日本と米国で特許取得）を同定し、米国の製薬会社と薬の開発に向けた共同研究が進められています。また、新たに見つけたCarenというRNAが、心臓機能悪化の原因となるミトコンドリアの機能変容と慢性炎症を改善し、心臓機能を回復できる機能を持つことがマウスを用いた実験で確認されました。その成果を基に新しいコンセプトの心不全治療薬の開発に挑戦しています。さらに最近、健康寿命を阻害する動脈硬化性疾患とそのリスクを高める

脂質異常症に対してワクチン治療薬の開発に挑むなど、老化及び加齢関連疾患の病態メカニズム解明から治療薬の開発まで幅広く取り組む尾池教授。「私は、皆が最期を迎える時に、人生を振り返り幸せだったと感じられることが重要だと思っています。そのための一丁目一番地は健康維持です。老化がWHOの疾病分類に組み込まれ『老化は病である』となった今、我々の研究を加速させ、その成果を早期診断法、予防法、治療薬の開発につなげ、一人でも多くの人が健康長寿を達成できるように社会に役立てたいと考えています」



大学院生命科学研究部
代謝・循環医学分野
分子遺伝学講座

尾池 雄一 教授
OIKE Yuichi

1999年熊本大学大学院医学研究科博士課程内科学専攻修了。2007年熊本大学大学院生命科学研究部教授。専門は代謝・循環医学、老年医学、分子遺伝学。総合内科専門医、循環器専門医、肥満症専門医。

研究についてさらに詳しく知りたい方はこちら

尾池教授
分子遺伝学講座
ウェブサイト



鉄代謝をキーワードに
体のメカニズムを解明し
新しい医療の礎を築く



研究員を指導する諸石教授(右)

と「Hippo経路」を抑制すると、がん細胞への免疫応答が増強することを発見しました。

Hippo経路の抑制によって、がんが小さくなる反応が得られたことから、諸石教授はその後、がんと免疫について研究を進めることになりました。

基礎研究の成果を応用し
未来医療に役立てる

諸石教授の研究室に所属するのは、消化器外科医や脳外科医、呼吸器外科

医、留学生など、多様なバックグラウンドを持つ人たち。臨床の観察から生まれる「なぜ？」を基礎研究によって解明し、臨床の現場へ返しています。逆に、基礎研究での疑問を、臨床の現場で検証します。違う視点の行き来が、研究を埋もれさせることなく相互作用を生み出します。

現在は、鉄代謝と大腸がんの関係性について研究成果をまとめています。「研究は一人ではできません。ここは垣根が低く、協力し合える環境です。健康長寿代謝制御研究センターや研究室が、ひとつのプラットフォームになっていると言えるかもしれません」

健康維持に大きく関わる
シグナル伝達と代謝制御

人間の体は多くの細胞からできています。細胞は環境に応じて増殖・生存・死といった細胞運命を適切に選択し、恒常性を保とうとします。この仕組みの柱となるのが、シグナル伝達と代謝制御です。基礎研究に取り組み諸石寿朗教授は「例えるならシグナルは行き先を決めるハンドル、代謝はエネルギーを生み出すガソリンです」と話します。

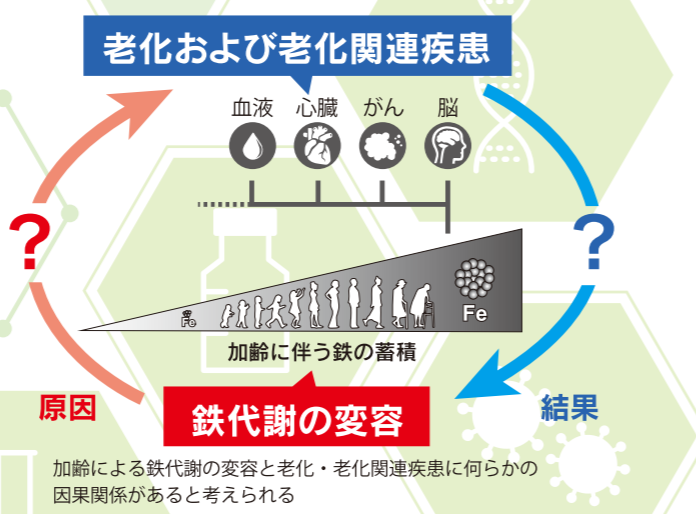
諸石教授が長らく研究しているのが「鉄代謝」です。細胞活動に大きな影響を与える鉄が、どのように体内で代謝されているかに焦点を当てています。一般に、鉄は加齢に伴い組織に沈着するといわれています。脳内では、

人はなぜ生きていられるのか。生体恒常性維持の仕組みという生命の根幹を解き明かす基礎医学。最先端の手法で追究し、がんや免疫などの分野で応用が期待される研究について諸石寿朗教授に聞きました。

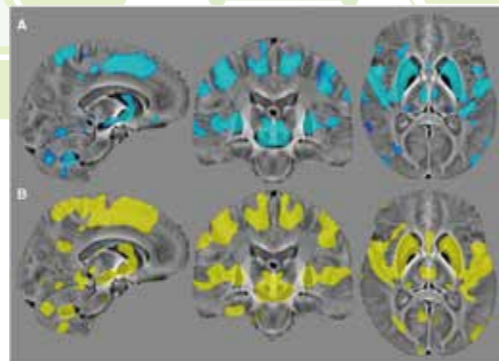
鉄が蓄積した部分に萎縮が見られるという比較結果や、鉄代謝の抑制により寿命が延びるという線虫の実験結果もあります。しかし、これだけでは鉄の蓄積が老化の原因なのか、結果なのか判別できません。

そこで、諸石教授は「鉄代謝の変容が老化や関連疾患にどう影響を及ぼすかを解明し、さらに鉄代謝の調節を疾患の予防・治療に応用できないか」と考えました。不足も過剰も体によくない鉄量のバランスを保つ仕組みに着目。FBXL5という酵素が細胞内の鉄量を感じて代謝の恒常性を保ち、これを変容させると神経系や造血に異常が見られ、肝臓がんができやすいことを明らかにしました。

一方、がん細胞は免疫の働きにブレーキをかけて増殖しますが、細胞の行動を決めさせるシグナル伝達のひ



加齢による鉄代謝の変容と老化・老化関連疾患に何らかの因果関係があると考えられる



Journal of Neuroscience 36,364-74(13 January 2016)
加齢により鉄代謝が変容し、脳に鉄が蓄積の様子を表したMRI画像。鉄が蓄積した場所と萎縮の場所がほぼ一致している

と諸石教授。

「加齢に伴って鉄代謝がどう変容していくかなどのメカニズムが解明されると、老化や疾患の予防・治療の戦略が立てられます。人間はなぜ生きていられるかを理解するのが基礎研究の主な役割ですが、より深く理解することで思いがけない発見が導き出され、そこに創薬などのアイデアが加わるとまったく異なる視点から治療法ができることもあります」。今後、諸石教授たちの基礎研究で得られた成果を基に、創薬や治療法の開発につながる



大学院生命科学研究所
代謝・循環医学分野
シグナル代謝医学講座
諸石 寿朗 教授
MOROSHI Toshio

2012年九州大学大学院医学系学府医学専攻博士後期課程修了。カリフォルニア大学サンディエゴ校への留学を経て2017年熊本大学へ。専門はシグナル伝達、代謝制御。

研究についてさらに詳しく知りたい方はこちら

諸石教授
シグナル・代謝医学講座
ウェブサイト





約1,000匹のハダカデバネズミを飼育。「8割は熊本で生まれました」と三浦准教授



を抑制しているということ。非常に珍しい特徴です」と三浦准教授。今後、修復に取り掛かる「速さ」だけでなく、「能力の高さ」がどう制御されているかを解明することができれば、がんやアルツハイマー病の発症を抑制する方法の開発も期待できます。

また、三浦准教授らは、がんや動脈硬化、糖尿病など、様々な加齢性疾患を引き起こす慢性炎症にも着目。ハダカデバネズミでは内因性の炎症が非常に起こりにくく、その分子機構の一端も突き止めています。「DNA傷害などにより増殖を止めてしまったの

が老化細胞。とはいえ、消えることなく、慢性炎症を誘発し加齢性疾患の発症や悪化にかかわるため、老化細胞を除去する研究が世界中で盛んに行われています。実はハダカデバネズミでは、この老化細胞が勝手になくなることも分かっており、そのメカニズムも少しずつ明らかになっています。

ハダカデバネズミが持つ非常に発達した恒常性維持機構の中で、今明らかになっているのは「氷山の一角」だと三浦准教授。「一つひとつ明らかにして、ヒトの健康寿命の延伸に役立てたいと話します。」



大学院生命科学研究所
感覚・運動医学分野
老化・健康長寿学講座

三浦 恭子 准教授
MIURA Kyoko

2010年京都大学大学院医学研究科博士課程修了。慶應義塾大学、北海道大学を経て2017年熊本大学へ。専門は長寿動物医学。

研究についてさらに詳しく知りたい方はこちら

三浦准教授
老化・健康長寿学講座
ウェブサイト



老化モデル

研究部門

日本唯一の研究拠点！ ハダカデバネズミの驚異の機能を ヒトの加齢性疾患予防へ

年齢に関わらず 死亡率が同じ珍しい哺乳類

アフリカのごく限られた地域のみで生息するハダカデバネズミ。子どもを産み続ける女王や、労働のみを行う階層に分かれた「真社会性」を持っています。真社会性はアリやハチなどには複数見られますが、哺乳類では非常にまれ。「さらに、げっ歯類で最も長生きで、現在確認されている最大寿命は37年。その個体はまだアメリカで生きています」と三浦准教授は話します。

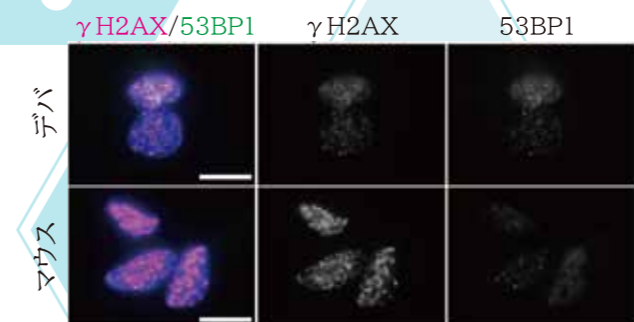
ハダカデバネズミの特徴の一つに、老化しづらい性質があります。ヒトを含め哺乳類は年齢が上がるにつれて死亡率が上がりますが、ハダカデバネズミは一定。人間で言えば、若者と高齢者の死亡率が変わらないのです。

DNA損傷への 高い抵抗性にも着目

「老化しづらいということは、がんや認知症などの加齢性疾患が起こりにくいということ。これまで2千匹以上の観察例の中で、がんになったのは数例。非常に強いがん耐性があることが分かっています」。ハダカデバネズミもマウスもヒトも、持っている遺伝子セットは8割が同じ。配列や使われ方が違うだけです。「つまり、ハダカデバネズミが遺伝子をどう使って老化耐性を獲得しているのか、そのメカニズムが分かれば、ヒトの老化を遅らせ、加齢性疾患を予防する方法の開発につながるのでは」と考えて研究しています。

2021年、三浦准教授らの研究チームは、ハダカデバネズミの神経幹細胞の分離と培養に成功。培養した神経幹細胞に放射線を当ててDNAに傷を与えると、マウスの細胞は多くが死んだのに対し、ハダカデバネズミの細胞死は起こりにくいことを発見しました。詳しく調べると、ハダカデバネズミの場合、DNA修復に関連する因子がとても早く活性化され、修復のスタートが非常に早いことが分かりました。

「神経幹細胞はニューロンなどの神経細胞を供給し、中枢神経系の恒常性維持を支えています。DNA損傷によって機能が低下すれば認知機能の低下につながるし、変異が起これば脳腫瘍の原因となります。ハダカデバネズミの神経幹細胞にDNA損傷への抵抗性があるということは、脳の加齢



デバネズミ(上)とマウス(下)で細胞のDNA損傷(γH2AXを染色して検出)と修復(53BP1を染色して検出)の様子を比較した顕微鏡写真。デバネズミのDNA損傷部分はマウスより少なく、損傷部位の修復はより活発に行われていることが分かる

珍妙な姿をした「ハダカデバネズミ」。なんと、老化しづらいという特徴を持っています。日本唯一の飼育・研究拠点を率いる三浦恭子准教授に話を聞きました。

研究室探訪

Laboratory Report

文学部 コミュニケーション情報学科 現代文化資源学コース

日高 利泰 准教授

HIDAKA Toshiyasu

マンガを切り口に 現代の社会や文化を見つめる



先生から一言！

歴史など幅広く学び
研究の土台をしっかりと



大学院人文社会科学部
日高 利泰 准教授

この研究室のメインの研究テーマはマンガ研究ですが、現代の文化、ジェンダー、教育、メディアなど、マンガ以外を研究テーマとする学生も多くいます。マンガは身近でとつきやすいかもしれませんが、しかし、研究するにあたっては、マンガだけを読めばいいというわけではありません。背景にある歴史など、幅広く学び、研究の土台をしっかりとさせることが大事だと学生に伝えていきます。

また、研究を通して学生には、自分の主張を裏付ける根拠を集めるプロセスと、論理的な文章の書き方を身につけてほしいと思っています。今後は、国際交流や留学に興味がある学生にも来てもらいたいです。

この研究室を選んだ
きっかけは？

卒論は好きなことで書きたいと思い、マンガ研究をやっているこの研究室を選びました。マンガ以外の研究をしている学生も多くいますが、だからこそ面白いと感じています。また、この研究室では、「こうではないか」、「ああではないか」と自分の考えについて指摘されるのではなく、「そういう考えもあるね」と受け入れてもらえるので、のびのびと研究ができます。

研究室の良いところは？

自由度が高く、のびのびと研究ができること、論理的思考が身につく実になる研究ができることです。日高先生に興味があることを伝えると、関連した本を紹介していただく場合があります。それを読んで思ったことや興味を持ったことを伝えると、また新しい本を紹介してくださるので、先生と話すことで一人ではできないところまで深掘りすることができま

うちの研究室自慢

■ 研究室の特徴

- ① 貴重なマンガ資料に触れることができる
全国からマンガの雑誌や単行本が熊本に送られてきています。中には古い貴重なものも含まれていて、それらに実際に触れることができます。
- ② マンガ以外の研究テーマもOK
ジェンダーやファッションなど、自分の興味のあることを研究テーマにして深掘りしていくことができます。一見くだらないように思えるものでも、掘り下げていくと私たちの暮らしや社会、人間のあり方などに繋がっていくことが分かります。
- ③ アットホームな雰囲気
「のびのびと研究ができる」「ストレスがない」と学生が口にするように、楽しく研究ができる環境です。



それぞれの研究テーマについて発表するゼミの様子



マンガ資料の目録づくりなど実物に触れて資源として整理する手法を学びます



学生から一言！ 研究室に所属している学生に研究の魅力を聴きました！

日高先生と話すことで 自分の興味を 深掘りできます



文学部
コミュニケーション情報学科
現代文化資源学コース3年
たなか みずき
田中 瑞希 さん

フェミニズムをテーマに、哲学者のナンシー・フレイザーとアクセル・ホネットの『再配分が承認か？』を読んで、自分なりの解釈を考える研究をしています。2年でジェンダー学を学んで興味を持ち、日高先生がジェンダー学にも詳しいということ、この研究室を選びました。

論文を読むのは大変ですが、社会をどういう風に捉えているのか分かったときに面白さを感じます。2人の考え方が分かっていたので、日本の政策とどう結びつけていくかを考えていきたいと思っています。

自分の考えを 受け入れてもらえて、 のびのび研究ができます



文学部
コミュニケーション情報学科
現代文化資源学コース3年
なかほら みずほ
中原 瑞保 さん

市川春子さんのマンガ『宝石の国』を題材に、主人公の自我の変貌について作家論の観点から研究をしています。このマンガでは、主人公の性格や考え方がどんどん変化していきます。他の作品にはない特徴で、ここに注目して研究すると面白そうだと思います。この研究テーマを選びました。どこで主人公の内面がどう変化するのかが意識しながら読むので、娯楽で読んでいたときと読み方、感じ方が全然違います。そこもまた面白いところですね。

どんな研究を？

どんな研究を？

用語 **09** 前期・後期

1年を前学期・後学期の2つの学期で区切ったもの。前期は4月～8月上旬、後期は9月下旬～2月上旬までである。

用語 **10** ターム

前期をさらに2つの時期に分け、1ターム(4月～6月)と2ターム(6月～8月上旬)とし、後期も3ターム(9月下旬～11月下旬)と4ターム(11月下旬～2月上旬)に分かれている。タームごとに開講している科目があったり、タームごとに試験が行われることもあるため、時期を把握しておくことが重要。

用語 **11** シラバス

講義の内容やスケジュール、成績の評価方法などの授業計画がまとめられているもの。最終評価がレポートなのか、試験なのか、また、普通の授業で課される課題と最終課題の割合(例:普通の課題提出30%、最終課題70%)などが示されているため、履修登録する前に確認しておくことが重要。

用語 **12** 単位

受講した授業科目について、試験や課題、普段の授業態度などが総合的に評価され、合格した場合にその証明として学校から与えられるもの。単位数は科目によって異なる。卒業

用語 **13** 全教棟・ゼンキョー

黒髪北地区のキャンパスにある「全学教育棟」のこと。1,2年次は主に教養科目の授業を受講しに行くことが多い。また、A～Fまでの6つの棟がそれぞれ3～5階建てであり、移動が大変なときもある。例:教室が「E105」と表記されている場合、E棟1階の105教室のことを示している。

履修登録編

用語 **06** 履修登録

自分で時間割を組み、受講する科目を登録すること。履修登録ができる期間が各学期ごとに決まっており、それ以降は変更できないため、注意が必要。また、学部や取得する資格などによって条件や必要な単位数も異なるため『学生便覧』や『教養教育の案内』といった冊子を確認し、不明な点は各学部の教務担当窓口や先生に確認してみるとよい。

用語 **07** SOSEKI

熊本大学学務情報システムの通称。履修登録はここから入力する。

用語 **08** セメスター科目

週1回、1つの学期【前期・後期】を通して履修する科目。

までに一定の単位を取得する必要があり、基準を満たしていない場合、留年したり、卒業できない可能性があるため、履修登録の際には必要な単位数を計算しておくことが重要。



ようこそ!熊本大学へ!

特集2

学びのための
基礎用語集2022

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます!熊本大学学生広報スタッフです。これから始まる新生活に、期待と不安でいっぱいのことと思います。大学は、高校までとは授業形態も生活も異なり、大学特有の用語もあって、戸惑ってしまうこともあるかもしれません。そこで、新入生の皆さんが、熊本大学の学生として生活していくうえで、知っておくと便利な用語を紹介します。ぜひ参考にしてみてください!

熊本大学学生広報スタッフとは
熊本大学の魅力を学内外に発信している学生ボランティアです。
学生広報スタッフの活動についてはP19でご紹介しています

用語 **03** Zoom

オンライン授業で用いるアプリケーション。映像で資料を見たり、講義を受けたりするほか、受講者を少人数のグループに分ける機能を使ってディスカッションもできる。質問はチャットで受け付けてもらえることもある。



用語 **04** オンデマンド授業

Moodle にアップロードされている資料や動画を使って受講する形式の授業。本来の授業時間に受講しなければならないものと、自分のタイミングで受講できるものがあるため、授業ごとに確認しておくことが必要。課題の提出が出席条件になっている授業もあるため、資料の確認だけで終わらないよう注意。

用語 **05** ハイブリッド授業

Zoom などによる遠隔形式と対面形式での授業を同時に行う授業形態。対面授業を行っている教室から同時に Zoom などでの授業の様子を配信するという形態が多い。

授業編
用語 **01** 熊本大学ポータル

後述する【Moodle】や【SOSEKI】を利用するための入り口となるウェブサイトのページ。利用方法等はガイダンスで説明される。検索サイトで「熊本大学ポータル」と入れると出てくる。ログインには、大学から付与される ID とパスワードが必要。

用語 **02** Moodle

e-Learning のための学習用プラットフォーム。自分の受講している授業の資料や、授業がオンラインで行われる場合は Zoom のリンク・パスワードなどが掲載されており、課題の提出も主にここから行う。授業形態の変更や課題についてなど、重要な連絡事項が掲載されているので、こまめな確認が必要。



まだまだたくさんの用語がありますが、今回は基本的なものを紹介しました!

これを参考にして、少しでも皆さんの不安や困惑を解消できたら幸いです。慣れない生活で、大変なことも多いと思いますが、もし分からないことがあれば、先輩や先生にぜひ相談してみてくださいね。

REPORT 東海大学と包括連携協定を締結しました

令和4年1月11日に、東海大学と包括的連携協定を締結しました。本協定は、両大学が、相互の教育研究活動全般における交流及び連携を推進することで、教育・研究の一層の充実並びに国際・地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的としており、私立大学とは初の取組となります。

令和3年7月12日に東海大学総合農学研究所と大学院先端科学研究部附属生物環境農学国際研究センター及び大学院生命科学研究所附属グローバル天然物科学研究センターとの間で、部局間連携協定を締結していますが、今回、全学的な連携に発展しました。

今後は、国立と私立の垣根を越えて協力し、相互の教育研究資源を補完的に活用することで、両大学並びに地域社会の発展に寄与していきます。

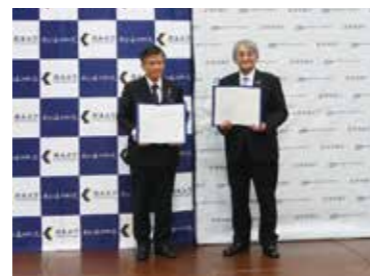


小川久雄学長(左)、山田清志東海大学学長(右)

REPORT 株式会社熊本銀行と包括連携協定を締結しました

令和4年2月1日に、株式会社熊本銀行と包括的連携協定を締結しました。本協定は、包括的な連携及び協力関係のもと、本学が有する研究成果や技術シーズと、熊本銀行が持つネットワークとノウハウにより、ベンチャー創出やアントレプレナーシップ教育をとおして地域の持続的発展に貢献することを目的としています。

今後は、人材交流を含めた両機関の業務連携によって、本学の教育研究活動の充実・強化及び活性化が期待されます。



小川久雄学長(左)、野村俊巳頭取(右)

REPORT KMバイオロジクス株式会社と包括連携協定を締結しました

令和4年2月16日に KMバイオロジクス株式会社と包括的連携協定を締結しました。本協定は、包括的な連携及び協力関係のもと、学術情報と技術の交流及び人的交流を通して、学術と科学技術の高度化を図ることを目的としています。

今後は、本学が有する研究成果や技術シーズと、KMバイオロジクス株式会社が有する高い技術力やトップメーカーとしての知見との融合により、今後のワクチン開発研究連携や共同研究のさらなる推進、データサイエンスとの連携及び学部・大学院教育等の充実を目指しています。



小川久雄学長(左)、永里敬秋代表取締役社長(右)

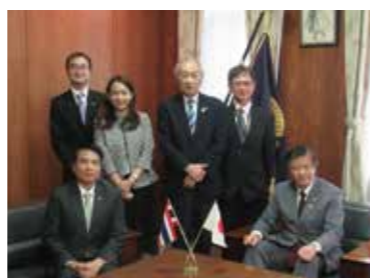
REPORT 駐福岡タイ王国総領事が本学を表敬訪問しました

令和3年12月2日に、ソールット・スックターウォン駐福岡タイ王国総領事ほか3名が小川久雄学長を表敬訪問しました。駐福岡タイ王国総領事館は平成30年10月に開設され、九州沖縄と中国地方の13県を管轄しています。スックターウォン総領事は2代目の総領事として令和3年10月に着任しました。

小川学長との懇談後、訪問団は本荘キャンパスを表敬訪問し、山縣和也大学院生命科学研究所長及び医学教育部スタッフと懇談を行い、岡田誠治教授からタイと医学教育部・医学部との交流実績について説明が行われました。

本学はタイのトップレベルの7大学との大学間交流協定に加え、7大学と部局間交流協定を結んでいるほか、本学大学院医学教育部と5つのダブルディグリープログラムを実施し、長年共同研究や学生交流を続けています。

その後、本学在籍のタイ人留学生7名を交えて昼食会が行われました。新型コロナウイルスの影響でタイとの学生・学術交流が滞っていますが、早く通常の交流が再開することを期待しています。



ソールット・スックターウォン総領事(前列左)、小川久雄学長(前列右)

REPORT 株式会社ニューコ・ワンとの共同企画による展示会を開催しました

熊本大学は株式会社ニューコ・ワンが運営する TSUTAYA及び蔦屋書店において、共同企画による展示会を不定期で開催しています。

令和4年2月14日から27日まで「田中智之の解体新書展〔熊本〕」と題して、大学院先端科学研究部の田中智之教授によるパース(建築や都市計画の完成予想図)、通称「タナパー」を蔦屋書店熊本三年坂において展示しました。熊本に縁のある建造物や都市空間を中心に、複雑な構造や多様な空間を青ペン1本で紙上に現出させたパースの細部まで楽しめる展示会となりました。



Kumamoto University

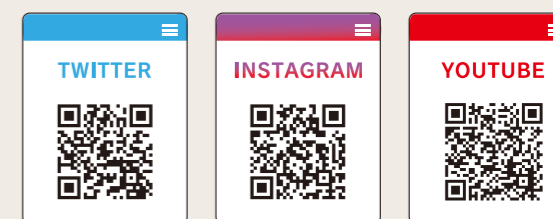
学生広報スタッフの活動報告

こんにちは！
熊本大学学生広報スタッフです！
私たちは熊本大学の魅力を学内外に発信するために、ボランティアとして様々な広報活動を行っています。

現在、SNSの運営や、動画制作等の活動を主に行っています。ぜひフォローをお願いします！



今回は、「学びのための基礎用語集 2022」(P15)、「群馬大学学生広報大使の皆さんと交流のコラボ企画」をお届けします！



群馬大学学生広報大使の皆さんと交流しました！

群馬大学学生広報大使さんとは2021年10月から交流があり、公式Instagramにコラボのお誘いのメッセージをいただいたことがきっかけで交流が始まりました。これまではZoomを用いた交流会を行いました。今後はこの繋がりを保ちたい！と考え、いろいろなコラボ企画を考えていくうちに今回の広報誌でのコラボが実現しました！

今回のコラボ記事の内容は「群馬大学との初コラボ！熊大生の実態と熊大について解明してみた！」です。群馬大学と熊本大学について、大学生活や大学の施設、それぞれの大学の用語などを比較し、熊大生や熊本大学の魅力を深掘りしていきます！



空きコマはどう過ごしてる？

新入生との交流はある？

キャンパス内のシンボリックな建物は？



←詳細はこちらから！

群馬大学広報誌にも出張しました！→
群馬大学広報誌「GU' DAY」2022年春号



このように熊本大学学生広報スタッフは、学生同士の交流やSNS運営、動画作成など、幅広く活動を行っています。新たなスタッフも随時募集中で、新入生はもちろん、2年生以上の方でも大歓迎ですので、気になる方は熊本大学学生広報スタッフまでぜひお問い合わせください！

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.57 (令和3年11月1日～令和4年1月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体の皆様、大学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約16億9,401万円(令和4年1月31日現在)のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。また、熊本地震復興事業基金へお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生に対する学修支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、令和3年11月1日から令和4年1月31日までの間に入金を確認させていただきました個人58名、11法人・団体の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

<熊本大学基金>

【9000万円】	匿名(9000)		
【331万円】	熊本大学医学部医学科後援会(1732)		
【100万円】	本坊 雄一・根本 宏美(200)	熊杏会(2300)	
【50万円】	山田 和彦(80)	山西 嘉晴(205)	医療法人社団幸村医院(50)
【20万円】	安武 綾(20)		
【10万円】	甲斐 広文(75)	中園 克久(61)	
【5万円以下】	井上 裕子(33)	東 昭生(6)	宮本 真次(4.4) 本島 昭男(26)

2. お名前のみ掲載

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

<熊本大学基金>

家村 和千代 [5]	位寄 和久 [3]	井原 宏	今泉 富美子 [2]	今任 寿 [2]	上田 一生 [3]	岡本 照子 [2]	奥村 恵一郎 [4]
小笹 晃太郎	豊永 哲至	永井 陳雄 [2]	中村 太志	橋本 張幸	波多野 恭行 [23]	福村 佳代子 [7]	森 秀樹 [3]
柳田 敏孝 [15]	矢野 恵美子 [3]	矢野 登久男 [6]	米村 和広 [4]	渡辺 昭市 [3]			
株式会社オーファス	株式会社双葉金属 [2]	ミリーヴ株式会社 [2]	有限会社やま弥				

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人23名、2法人・団体

REPORT 令和3年度学生表彰を行いました

令和4年3月15日に、令和3年度の学生表彰を行いました。平成14年度から続くこの表彰制度では、学術研究や課外活動において優秀な成績を修めた、または顕著な活動が認められた学生や学生団体を表彰しています。令和3年度は、3団体及び個人2名に表彰状を授与しました。

【団体】

団体名	大会等名	成績
Soleil (工学部公認サークル)	令和3年電気学会U-21学生研究発表会	優秀賞
	公益財団法人 日本工学教育協会 第69回年次大会 工学教育研究講演会	Best Presentation Award
アーチェリー部	第43回九州国立大学定期戦	30m・W 男子団体の部 優勝
第十回 紫熊祭実行委員会	令和3年度 第十回紫熊祭	初のオンライン開催・アーカイブ再生回数1万4千回以上

【個人】

サークル名	所属	氏名	大会等名	成績
アーチェリー部	工学部1年	岩崎 瑞季	第56回九州学生アーチェリー新人選手権大会	初心者部の部 女子優勝
アーチェリー部	理学部3年	渡邊 優斗	第43回九州国立大学定期戦	30m・W 男子部の部 優勝



INFO JR九州ウォーキング【くまもと花とみどりの博覧会「まち山エリア」を満喫】に参加しませんか？

JR九州熊本支社が主催する「JR九州ウォーキング」の春のコースに、JR竜田口駅から黒髪キャンパスを經由するコースが設定されました。4月から一般公開を再開した五高記念館へ、この機会にぜひお越しください！

【日時】 令和4年4月9日(土) 小雨決行※中止の場合は、駅およびJR九州ウォーキングのウェブサイトにてお知らせします。

〈スタート受付〉8:30~11:00 〈ゴール受付〉15:00まで

【受付場所】 JR豊肥本線 竜田口駅 (熊本市北区黒髪七丁目)

【参加方法】 事前申込不要・どなたでも無料で参加できます。

【問い合わせ先】 九州旅客鉄道株式会社熊本支社総務企画課 TEL: 096-326-6968

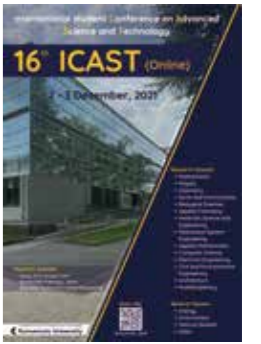


REPORT 第16回先端科学技術分野学生国際会議(The 16th ICAST 2021 Online)を開催しました

大学院自然科学教育部は、令和3年12月2日、3日の2日間の日程で「第16回先端科学技術分野学生国際会議」(ICAST: International Student Conference on Advanced Science and Technology)を開催しました。

ICASTは学生により運営される国際会議で、英語による研究発表や討論により学生の実践力及び英語運用能力を強化し、海外からの学生との交流により国際感覚を養うことを目的としています。平成20年より海外交流協定校での開催も含め毎年開催され、16回目の今回は、昨年に引き続きオンライン開催となりました。

今回は、大学の参加登録者107名に加え、熊本県内の高校から61名、海外交流協定校(中国、インドネシア、トルコ、フィリピン、フランス、韓国、台湾、キルギス、マレーシア、チェコ)から62名が参加登録し、口頭発表156件を英語で行い、のべ712人の参加がありました。また、ICAST学生運営委員会により会議の準備運営が行われ、オープニングセッションを含む各セッションの司会進行等も学生により執り行われるなど、有意義な国際会議となりました。



REPORT 令和3年度女性研究者賞及び女性研究者奨励賞の表彰式を開催しました

令和4年2月10日に、令和3年度「熊本大学女性研究者賞表彰」及び「熊本大学女性研究者奨励賞表彰」の表彰式を開催しました。

熊本県内の女性研究者を対象に昨年11月から12月にかけて公募を行い、厳正なる選考の結果、顕著な研究成果を有し、ロールモデルとして推奨するにふさわしい人格と識見を有する研究者を対象とした女性研究者賞表彰には、小林牧子氏(熊本大学大学院先端科学研究部(工学系)・准教授)、将来性が期待できる40歳以下の若手研究者を対象とした女性研究者奨励賞には、久世望氏(熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター・特定事業研究員)が選出されました。

小林氏と久世氏には、表彰状及び副賞としてパールブローチが贈呈されました。



左から、伊賀崎伴彦准教授、前田ひとみ副学長、小林牧子准教授、小川久雄学長、大谷順理事 ※久世研究員については、遠方に在住のため表彰式は欠席。

REPORT 「第1回データ駆動型社会における産学連携シンポジウム」を開催しました

大学院自然科学教育部は、令和4年2月18日に「第1回データ駆動型社会における産学連携シンポジウム」をオンライン開催しました。

自然科学教育部では、2021年度から副プログラムとして、ビッグデータを扱うものづくり科学と最新情報科学を研究開発の現場で連携できる人材の育成を目的とした「データ駆動型社会を担う人材育成プログラム」をスタートしました。この産学連携シンポジウムは、実際に「データ駆動型アプローチによるものづくり研究」の先陣を切っておられる産学の研究者の方々から、最新の研究成果と今後の展開についてご講演いただきました。シンポジウムには、149名の参加がありました。



REPORT 「くまもとの健康と地域づくりを考える会オンライン研修会」を開催しました

令和4年2月19日に、医学部保健学科健康科学講座では、「くまもとの健康と地域づくりを考える会オンライン研修会」を開催しました。

本研究会は、看護職が相互につながり合い保健活動の一助を見出すことを目的としており、昨年度に続き2回目の開催となった今年度は県内外の行政保健師、教育関係者、学生等53名が参加しました。

熊本県北に位置する玉東町の肥合博士保健師から、20年以上に渡る歯科保健事業の展開についてご講演いただいた後、同講座の金森弓枝助教、谷川千春助教が研究発表、大学院生の坂口美香さんが、院生活の紹介を行いました。参加者からは、「地域の課題に基づいて組織や住民と連携して事業展開していく保健師の技を学び保健活動への意欲が高まった」等の感想が寄せられました。

今後も本学保健師課程の同窓生をはじめ、看護職の皆さんと共に学ぶ機会を設け、地域保健活動の発展に尽力してまいります。

